令和６年度 展覧会事業計画

［特色］ 虚子・年尾と北海道展、降矢なな展、氷室冴子展展と、全国的な視野をもつ一方で、北海道の文学史にも目を向け、木原直彦と北海道の文学展を配置。幅広い層を対象とした展示としてファミリー文学館を開催。「見る」「読む」を組み合わせ、バラエティーに富んだ構成とする。

※ 開催時期及び展示内容は、変更になる場合があります。

事業項目		事業概要		目標観覧者数	特記事項
展覧会事業	常設展	事業名（開催時期）	北海道の文学 （通 年）	8,400	・展示室の一角の文学館アーカイブコーナーでは、年４回程度テーマを設定して展示替えを行い、収蔵資料をさまざまな角度で紹介する。
		［趣旨］ 明治以降の北海道ゆかりの文学者や作品を、直筆原稿や書画、色紙 ・短冊、稀覯本など貴重資料を中心に精選し、分野別に網羅的に紹介。 ［構成］ 北海道の小説・評論、アイヌ民族の文学、詩、短歌・俳句・川柳等短詩型、児童文学など。アイヌ文学のコーナーに若干の追加を行い、充実をはかる。			
	特別展	事業名（開催時期）	「虚子・年尾と北海道」（４～６月）	2,000	・関連普及事業（講演会、セミナー等）を期間中に開催する。
		［趣旨・内容］ 明治以降、現代に至る俳句史において俳誌「ホトトギス」は重要な位置を占め続けてきました。俳句だけではなく夏目漱石を小説家として世に送り出したのも「ホトトギス」であり、日本文学にとって重要な位置を占めている。その主宰を長年つとめたのが高濱虚子である。その虚子から主宰を継承した長男・高濱年尾は青年時代に小樽高等商業学校に在学するなど北海道と深い縁があった。 高濱虚子生誕150年にあたる今年、道内外の貴重な資料の展示を中心に、虚子・年尾というふたりの俳人が北海道にしるした足跡と、「ホトトギス」に関係する道内作家たちの活躍などを紹介する。			
	特別展	事業名（開催時期）	「絵本作家 降矢なな 原画展」（６～８月）	4,600	・関連普及事業（講演会、セミナー等）を期間中に開催する。
		［趣旨・内容］ 降矢ななは、スロバキア在住の絵本作家。『めっきらもっきら どおん どん』でデビュー。1992年にスロバキアのブラチスラバ美術大学に留学し、ドゥシャン・カーライに石版画を学んだ。その後は『やまんばのむすめ まゆ』シリーズ、『おれたち、ともだち！』シリーズなど、80冊を超える絵本を手がけている。生き生きとした線とダイナミックな構図、明快な色彩‥‥‥物語にふさわしい表現を駆使して子どもたちが絵本の世界であそび、夢中になれる工夫を凝らしている。 本展では、代表作を中心とした原画を紹介する。			
	特別展	事業名（開催時期）	「氷室冴子の世界 ふくれっつらのヒロインたち」（９～11月）	4,000	・関連普及事業（講演会、セミナー、朗読会等）を期間中に開催する。
		［趣旨・内容］ 氷室冴子(1957～2008)は、1980年代から90年代にかけて集英社の少女向けレーベル「コバルト文庫」の代表作家として活躍。平安時代を舞台にした「なんて素敵にジャパネスク」、スタジオジブリでアニメ化された「海がきこえる」、未完の大作で古代日本をテーマにしたファンタジー「銀の海 金の大地」など数々の名作を生み出した。 氷室作品に登場する、自分の感情に素直に生きる「ふくれっつら」のヒロインたちは、時代を越えて生き生きとした魅力を放っている。 多くの読者に愛され続ける氷室冴子の作品世界を多彩な資料とともに紹介する。			
	特別展	事業名（開催時期）	「木原直彦と北海道の文学」（２～３月）	1,500	・関連普及事業（講演会、セミナー等）を期間中に開催する。
		［趣旨・内容］1966年に札幌で開催された北海道文学展は大きな成功をおさめ、翌年の北海道文学館設立へとつながった。北海道文学館は、文学資料を収集保存するとともに文学展を開催し、その活動が1995年の北海道立文学館開館へと結実していく。 北海道立文学館初代館長だった木原直彦は、北海道文学に関する数多くの著作を執筆している。開館30年を迎えるにあたり、本展では、木原の眼を通して明治以降の北海道文学のバラエティに富むトピックスを巡り、さまざまな時間と場所を訪ねる。			
	教育普及事業展示	事業名（開催時期）	ファミリー文学館 「雪が降る――本の中にも、文字の上にも……」（11～１月）	2,500	・教育普及事業「ファミリー文学館」として実施。家族向け展示と体験型のワークショップを開催する。 観覧料は無料とする。
		［趣旨・内容］ 北海道の冬は雪の白い世界が広がり、雪の降ったあとの樹木は、枝に雪が降り積もり幻想的な雰囲気が醸し出される。 本の中にも、文学作品の中にも雪は降っている。作品の中では、ロマンチックな雪や、うれしい時の雪、悲しい時に降っていた雪や開拓の苦労に伴う雪など、いろいろな雪が描かれている。本展では北海道ゆかりの作品から雪を描いた作品を紹介。文学の中の雪の冷たさ、暖かさを感じていただきたい。			